



2017. 8月第585号

発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって事前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

「愛すること」。これは私たちクリスチャンにとつて最も大切な原理であり、原則である。「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。」とはまさに黄金律である。人をがんじがらめにしていたあらゆる戒律を越え、私たちに主が与えられた、最も大切な教え、それが「愛」なのである。愛は私たちが自由にし、愛は私たちが救いに至らせる。けれども同時にこの愛ほど厄介なものはない。なぜならそれが、いつも私たちにとつて感情の問題と結びつくから。愛することは、理性的であるよりも、好きや嫌いといった感情に支配されやすい。ここでいくらアガペーの愛とエロースの愛は違うのだと力説したとしても、どうしても人は、自分の愛したいものだけを愛し、愛せないものには、エクスキューズ(失礼)と、まさに怪我を負うサマリヤ人の向こう側を行くように避けてしまうのだ。敵をも愛する「愛」。それは、私たちをいつも悩まし、所詮人には不可能なものである、ただ主の憐れみによる

瞑想

わたしは、こう祈ります。  
知る力と見抜く力とを身に付けて、  
あなたがたの愛がますます豊かになり、  
本当に重要なことを見分けられるように。

主幹牧師 榎本 恵  
フィリピ1:9-10

身に付けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。」(フィリピ1:9-10) 獄中からパウロは、彼の開拓したヨーロッパ最初の教会であるフィリピの教会の信徒に向けて手紙を書いた。「その

しかない結論めいたことで終わらせることになりやすいのだ。けれども、本当にそれで良いのだろうか。今月の聖句として選ばれたパウロの言葉は、そんな愛なき私たのうちにも光を放ってくれる。  
「わたしは、こう祈ります。知る力と見抜く力とを身に付けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。」

と云うほどのものだったのだ。「キリスト・イエスの愛の心」と訳されているギリシャ語は「スプラランクナ(内臓)」という意味であり、イエスが、時として人々を深く憐れむ時に使われる「スプラランクニゾマイ(はらわたがちぎれるほどの思い)」と同様の言葉なのだ。その愛は、決して一時の感情的なものではなかった。パウロの投獄によっても、また敵対する偽教師たちの誹謗中傷によっても変わることもなく、困難や不安、疑念や誘惑をくぐり抜け、まさに知る力と見抜く力によって手にした「愛」に他ならない。あらゆる時の中に働かれる神を知り、全てのもの背後にある神を見抜く時、私たちは、本物の「愛」を見出すことができる。  
友よ、パウロは今日も、私たちのために祈っていてくれる。愛することの少なさを嘆く私たちに。行いが愛なのではなく、知ることこそが愛なのだ。知る力と見抜く力を身に付けるものとなるようよ。

三重アシラム

恵みの時(奨励) (3)

日本キリスト教団引退牧師 下村徹嗣

しとしてくださる神さまに心を向けたいと思います。

安藤真知子

「心の目を開いてくださるように」(エフェソ1:18) 一日アシラムに与えられた主の恵みは、今までも何事も自分の力でやって来たと思ふし、自分を誇っていました。しかし、信仰生活ではつまずきばかりで、自分の努力が足りないと思つて、くたびれ果てていたこの私に、主は語りかけてくださいました。

第16回新潟一日アシラムに参加して

ではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。(エフェソ2:8,9) 今までの私の心は閉じたまま、御言葉を聞いていたことにより、気が付くことが出来ました。私は、アシラムでファミリーが与えられた方たちの為の祈りも、約束した時間のレビの時もなかなか守れないものであります。主は今年も、霊なる食卓アシラムに招いてくださいました。「心の目を開いてくださるよう」に「今日、私に与えられた大切な御言葉をわすれないよう、一歩、一歩、主の道を歩ませて頂きたいと思ふます。

だから神さまにすべてお委ねしようということですが、これは私たちが何もしないとということではありません。すべて受け入れてお委ねする、そうさせていたたくには、どれほどの汗と涙と苦しみ、忍耐、ときが必要なことかと思われます。しかしながら、自分の願いを手放し、自らの人生を神の御手におあずけすること、主であるイエスさまとしっかりとつながれます。そのようにして神様の力をいただいて徐々にそうさせていただけます。神さまから与えられているのちを一日一日大切にしつつ信仰の歩みをしていくことで、

私たちが「成し遂げ」させていただくのです。マタイ16章24節でイエスさまは弟子たちに「私について来たいものは自分を捨て、自分の十字架を背負って、私に従いなさい」と言われました。神にすべてをお委ねすることこそが、イエスさまが言われる「自分を捨て、自分の十字架を背負う」ことだと私は思います。そこにならぬ神の御業があらわれるからです。受苦日の今日、私たちもイエスさまの歩みに倣って、私たちが何ができるかとかできないとかではなく、私たちの存在自体を、私たちが生きていくこと自体を愛し、よ

この度の私の病いにおいて言語障害も機能マヒもなくすませてくださったのは、もうしばらく主のご用のために仕えなさいという御声だと受け止めました。しかし再発という形か、どんな形かはわかりませんが、私にもいずれは「引き渡される」ときが来ます。そのときにはイエスさまのあの受難の歩み、限らない忍耐に倣いつつ、御国への準備をさせていただきたいと思ひます。私たちの前には復活され天に昇られたイエスさまがおられ、私たちも天の国にて永遠に生きることを約束されています。その希望に信頼し、永遠の命に生きることを待ち望んでまいりましょう。(終)



「恵みにより信仰によって救われまされた。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるの」(エペソ2:8,9) 今までの私の心は閉じたまま、御言葉を聞いていたことにより、気が付くことが出来ました。私は、アシラムでファミリーが与えられた方たちの為の祈りも、約束した時間のレビの時もなかなか守れないものであります。主は今年も、霊なる食卓アシラムに招いてくださいました。「心の目を開いてくださるよう」に「今日、私に与えられた大切な御言葉をわすれないよう、一歩、一歩、主の道を歩ませて頂きたいと思ふます。ご奉仕下さいました加々美先生はじめ、兄弟、姉妹の皆さまに心から感謝申し上げます。

新潟教会

ご献金者 敬称略 4月分 鹿屋キリスト教会

5月分 哲造 教会 良雄 裕美 秋田 アシラム 三子 和子 千歳 京子 上神 孝子 香川 昭子 山田 久子 山田 美子 正岡 リツコ 久一 朝子 和恵 沖田 聖書教室 福岡 義明 山崎 直子 俊輝 森村 俊輝 森田 妙子 倉任 聖書委員会 金田 健一 和子 神原 三郎 野口 洋子 横山 宜和 ちひろ 牧師 夕礼 祥 村上 勇 大坂 聖書教室 喜代 洋子 萬里子 一志 隆雄 鈴木 川 聖書入門講座 悠子 大山



# 第37回 関東青年アシュラム

大澤 仰児

今回、2泊3日のアシュラムに参加する事が出来、本当に神様から多くの恵みに気づかせて頂いたように感じました。というのも、日々の仕事や多くの事柄に心に煩いがあったからだと思えます。日々聖書を読んでも、心の中の落ち着きの無さを感じ、自分にも仕事にも他人にもいらだちを感じていました。しかし、アシュラムの第1日のオリエンテーションの時にチャ

ベルにてイエス様の存在を感じ、沈黙を守りました。

一回目の静聴の時、恵みの時も、精霊様が近くに自分の目の前に存在されているのも感じました。それはとても神秘的です。とても繊細さを感じる体験だったと思えます。一回目の「恵みの時」にも、ファミリィで輪になり、お互い聖書から沈黙の中で祈り語られた事を証しするときも、イエス様の顔は見えなくとも、その白い御姿を感じました。そしてそれは二回目の真夜中3時頃にも近くにおられるのを感じました。

二回目の静聴、恵みの時も、常に精霊様が近くにおられ、聖書を沈黙の中で読むときにいつも自分の目の前にいるのを感じました。大きく、御姿は白く、そこにおられるのを感じることが出来、私はとても心が落

ち着きました。バイブルホームでのこの3日間、沈黙の他にも多くの恵みを与えられました。初めての家長で戸惑いもありましたが、ファミリィの暖かな祈りと溝口先生のアドバイスもあり、本当に最初から最後まで守られました。

私は今回でアシュラムの参加はまだ三回目

で、多くの方々に支えられ、祈られてきました。これからも多くのことをアシュラムで感じ、祈り、神様のことを深く感じられるようなクリスチャンでありたいと強く願ってやみません。

この霊的労働が多くのの人々、特に教会内にも広がっていくことを強く願い、祈っていきましょうと思います。本当に、ありがとうございます。

(蓮沼キリスト教会)

## 第50回 熊本(復興) アシュラムを感謝して

竹内一臣

全国のアシュラムの友からの熱い祈りと尊い義援金を携えて、榎本先生は熊本まで駆けつけて下さり、益城町や熊本城、西原村の仮設団地、ルーテル学院を訪ね、私たちに元気を与えて下さった姿を思い出します。

熊本地震から1年が過ぎました。今回は熊本アシュラムの50回目の節目の年でもあり、全国の皆さまから戴いたご支援と御厚情に対して感謝と復興のメッセージを熊本から発信したいと思っていました。榎本先生も、将来は九州のアシュラムが力を合わせて一泊アシュラムを考えたらと背中を押して下さい、緒方先生は、「人を集めることは難しい、しかし、やると心に決

めた以上、本気でやりなさい。神様は必ず与えて下さることを信じて、自分の思いが先行しないように注意しなさい。アシュラムは作るものではなくて、出来ていくものだから。」と言われ、心が決まりました。

熊本(復興)アシュラムのために、アシュラムセンターが全面的に支援して下さい、全国に案内状を配布して下さいました。その効果は大きく、北海道から吉田姉と幡江姉、常任委員の前野姉が籾内姉と猪瀬姉を、修道場から伊達兄、鹿児島島から八木谷姉、福岡アシュラムから7人、熊本から12名、計27名の参加申し込みがありました。一枚、一枚の申し込み書が届く度に、有り難く、奇跡を見ているようで、感謝で涙が出る思いでした。(続)



金井百合子  
チャイム・コンソート  
(池田チャイムの会)  
静岡聖書教室  
安仲 萌子  
東京聖書教室  
吉田すみえ 康子 歌子 平和  
米田 伊達 センター  
聖書教室  
南 和子 岩夫 江直美 恵  
藤本キク 康子 洋美 栄一 氏  
福山 榎本 高橋 名 喜多川啓子  
榎本 光太  
関東青年  
アシュラム  
湯野 静子  
鹿屋  
キリスト教会  
67口  
¥651,494

榎本保部 牧師  
召天40周年記念  
事業のために  
常任運営委員会  
榎本 和子  
2口  
¥1,101,000

ヨセフ基金  
吉田すみえ  
ちいろば  
アツちゃん・  
シュラム君  
2口  
¥5,000

会堂改築  
常任運営委員会  
1口  
¥20,000

合計  
72口  
¥1,686,494  
感謝いたします

# アシュラム修道場生活記

## その7 「希望」

伊達 平和

この世を動かす力は希望である。

やがて成長して果実が得られるという希望がなければ、農夫は畑に種を蒔かない。

M.ルター

家庭菜園が趣味である。修道場の畑には、約15種類の野菜と花が植わっている。その成果はFacebookに載せているが、色とりどりの大地の恵みがあふれんばかりである。しかし、物事にはなんでも表と裏があるもので、決して上手く行くときばかりではない。枝豆は全て葉っぱが落ち、実が小さいまま育たなかった。スナップエンドウは8箇所中3箇所しか芽がでなかった。かぼちゃの葉はウリハムシに襲われた挙句、うどんこ病にかかってしまった。大好きなモロヘイヤに至っては、芽が出たとたん何者かに全て食い尽くされた。「このハゲー!!!」と叫びたくなる、そんな心境である。センターとFacebookには良いものしか見せていないが、実は修道場の畑は「下手な鉄砲数撃ちゃ当たる」方式である。印象操作はメディアだけでなく、修道場でも起こっている。

さて、冒頭に掲げたのはプロテスタントの祖、ルターの言葉らしい。自分では意識していなかったが、たしかに畑に種をまくのは、種が芽を出し、育ち、実を結ぶという希望があるからだ。そういう意味で修道場の野菜は希望が形になったものである。もちろん、時には失望することもあるが、そのすぐ後には、じゃあ、次は何を植えようか、と考えている自分がある。修道場の畑を耕す事によって「意外と希望に満ちた生活してるじゃん」ということに気がつく。

希望のない世の中と、よく言われる。たしかにテレビや新聞をみると、毎日のように国内、国外の事故や事件が目飛び込んでくる。一つ一つのニュースが流されるたび、私たちは不安

になり、希望を見失う。世間の人不安であると喜ぶ人がいるのだろうか、印象操作が行われているのかも知れない。しかし、それに踊らされる必要はない。希望は形・姿を変えて日常の中にある。日々の食卓に並ぶ食材は、それを生産した人の希望である。隣でご飯を食べている人は、これまで育ててくれた家族の希望である。そう思って日常を見渡した時、この世の中は、なんと希望で満ちていることだろう。

希望はこの世を動かしていく。だから私たちは種を蒔き続けなくてはいけない。それが道端におち、鳥に食われることもあるだろう。しかし、もしかしたら、その種は消化されずに別の地に落ち、いつか芽を出すかも知れない。芽が出ないからといって種まきを渋っている世界に希望が満ちることはない。蒔かない畑に実りはないのだから。「たとえ明日、世界が滅亡しようとも今日私はリンゴの木を植える。」と唱えた500年前のルターの言葉を噛み締めつつ、今日も修道場の畑に種を蒔こうと思っている。



左、立派なとうもろこし。

右、アリにたかられたとうもろこし。



アシュラムセンター修道場Facebookページができました!  
<https://www.facebook.com/ashram.monastery/>  
生活記「番外編」や修道場の風景をお楽しみください。

### あとがき

九州北部の水害による甚大な被害の報道に接するたびに心が痛む。熊本地震の被害もまだ癒えぬうちに、「どうして」と天を仰ぎ見るしかない。神様の計画は私たちに、時として理解することができない。けれども、たとえどんなことがあっても神はそこに意味を与えられることを信じ、起こってくることに向き合っていく。励ましあっている。九州の助け合っている。九州の皆さん、アシュラムセンターは祈っております。(恵)

## 瞬きの詩人

## 水野源三の世界 31

三浦綾子記念文学館特別研究員

森下 辰衛

## 心 臓

なにげなく  
胸に手をやれば  
心臓が動いている  
まだ動いている

いくたびも医者に  
だめだといわれたのに  
心臓が動いている  
まだ動いている

私の意志でなく  
神様の意志で  
心臓が動いている  
まだ動いている

全身が麻痺しているというのは大変なことで、星野富弘さんの場合は、内臓を守っている筋肉類も麻痺しているために、何度も危険な状態に陥ったことがありました。源三さんの場合は、口頭言語を失っている点、富弘さんよりも重い障害ですが、ドキュメントビデオの映像で見ると、自力で左右に上半身を振りながらテーブルの上に頭部を載せることが出来たようです。弟の哲男さんによれば、この詩のように「なにげなく 胸に手をや」ることも、わずかにできなくなかったようですが、強く曲がってしまっているのが、掌を胸に当てるようなことは無理でした。手のどの部分かが胸に当たるような感じだったのか、あるいはこの手は源三さんの心の手だったのかも知れません。

それはともかく、心臓という臓器は、自律して動いています。少なくとも手足のように人間が意志的に止めたり動かしたり出来ない、不思議な器官です。私の鼓動は私が動かしているも

のではありません。私の身体の内側に所属しているものですが、私の意志の支配下にあるものではないという意味では、私の所有ではないのです。ところが、私の手の内にはないその部分の活動が生命にとって一番重要な体の動きであり、そこに私のいのちの根拠があるのです。

生命の維持を決定する最も重要な器官が、その人間の意志の下にないということは驚くべきことです。つまり、私を生かしているのも、私をいつか死なせるのも、私自身ではないということが、すべての人、すべての動物において、はじめから決定されているのです。ならば、自律して打ち続ける鼓動とは、私のいのちの支配権が私自身にはないことの証拠であり、宣言でもあります。その鼓動が、私のからだの真ん中の胸の所で、現在形で、存在し、動き、その驚くべき事実を知らせ続けているのです。

そう考えると、まるで、心臓は神さまが私の胸のところで飼っておられる私とは別の生き物のようでもあります。あるいはそれが神さまにしか属さないのなら、私の心臓の鼓動は、私の鼓動のようで、実は神さまの鼓動（リズム）なのではないか？とも思えてきます。岸辺に打ち寄せる波のリズムや惑星の周期と同じように。

その心臓が「いくたびも医者にだめだといわれた」のです。未来はない、もう希望はないのだと。医療技術からの結論と共に、嘲る者が耳元に来て、どうせすぐに止まるさ、望みを持つなと囁いたでしょう。いくたびもいくたびも、絶望を確認させられ、叩きつけられたのです。

けれど助からないと何度言われても、それでも動いている。もうずっと前に止まってしまっていて当然なのに、まだ動いている。それは、この心臓が現在形の奇跡として動いているということです。私のいのちを生かし、いずれ終わらせられるその方の、意志とご計画があり、そのゆえに、いくたびでもその「だめ」から生還させる力が、その方にはある。その方の“生きよ”という意志そのものが、私の胸のところで動いているのです。



8月のアシュラム(聖書教室等はお休みです)

21(月) ~ 23(水)	第27回 軽井沢アシュラム (南ヶ丘倶楽部) 奉仕者 大門義和師	03-3607-9063 川口博司兄・光代姉
---------------------	--	---------------------------

9月のアシュラム

1(金) ~ 2(土)	新潟一泊アシュラム (メイフサンピア) 奉仕者 榎本恵師	0250-23-2697 吉澤昭男師
17(日) ~ 18(月・祝)	九州アシュラム (福岡カトリック黙想の家) 奉仕者 榎本恵師	097-522-2768 岡山敦彦師

2017年10月以降のアシュラム予定

10月2日	河辺一日アシュラム(秋田)
10月2~3日	第41回 山陰アシュラム
10月11~13日	第5回 日光オリブの里アシュラム
10月20~21日	第22回 北陸・富山アシュラム
10月27~28日	第18回 愛知一泊アシュラム
11月6~7日	第38回 札幌アシュラム
11月21~23日	第42回 京浜アシュラム
11月23~25日	第41回 阪神アシュラム

第14回 国際正義・平和アシュラム/  
ちひろば牧師召天40周年記念会in神戸

9月25日(月)~27日(水)

会場 ANAクラウンプラザホテル神戸  
日本キリスト教団 神戸聖愛教会

奉仕者 榎本 恵 師  
山岡三治 神父(イエズス会)  
森下辰衛 氏(三浦綾子読書会代表)  
沢 知恵 氏(シンガーソングライター)

アシュラムセンターに届いたお便りの中から

阪神一日アシュラムのあとで

尾崎 恵 (ニューライフキリスト教会)

五年振りのアシュラム参加、毎年、夫婦、各々にお心のごもった誕生日メッセージを頂き、祈られていることをしみじみと感じ感謝しております・・・。

現在は、主人、子供達の協力の元、82才の母も一緒に暮らしております。私の病、母の病を通し、また、教会の愛の交わりを通し、母を思いやることができました。頑なな心がイエス様の愛を受け入れ薄皮を剥ぐように柔らかくなり解放されてきました・・・。

榎本先生はお変わりなく、元気はつらつですね。アシュラムが継続され世界中に拡がっていることは、まことに、神の御業です。主を見上げて、コツコツと続けてらっしゃる御姿に敬服いたします。今回献金の御奉仕をさせていただいたこと、励みとなりありがとうございます。またお目にかかれますことを楽しみにしております。

みことば

日本キリスト教団  
西川口教会牧師(埼玉)

金田 佐久子

「主イエスに聴く  
マタイ福音書第6章より」  
(4) 9節 神への呼びかけ

「だから、こう祈りなさい」と、主イエスは祈るべき言葉を授けられました。主イエスご自身も祈っておられたはずですが、主イエスの真似をして祈ることによって、わたしたちは神の子にふさわしく造られていくのだと思うのです。「天におられる」・「わたしたちの」・「父」です。神は「天」におられ、わたしたちは「地」にいます。天は人の及ばない領域であって、地からはっきりと隔てられています。まことに厳かなことです。この呼びかけは、わたしたちに天におられる神を仰がせてくれます。主イエスは、その天におられる神を「父よ」と呼んでよいのだと、教えてくださいました。そうであるならば、「父よ」と呼ぶ者は「父の子」とされています。神の子です。驚きです。なぜなら、ただ主イエスだけが神を「父よ」と呼べる御方なのに、その主イエスが神を「父よ」と呼ぶことを人に許してくださったからです。しかも「『わたしたちの』父」です。この呼びかけには「わたしと一緒に父を呼ぼう」という主イエスの招きがあります。主イエスと共に、ただのひとりの父を呼ぶように造られます(マタイ23・9)。すべての人に開かれ、すべての人が招かれている祈りです。世々の教会がこの祈りを受け継いで、わたしのところにもこの祈りが届けられました。「天におられるわたしたちの父よ」と神を呼ぶなら、その人に聖霊が働いておられます(ローマ8・15)。この呼びかけはわたしたちを救いへと導いてくれます。



常任の引原兄、京都から、早天祈祷会、労作のご奉仕。アンナ祈りの家の溝、ピカピカに!



かつての修道生(左 岩崎兄、右 宇田師) 感激の再会!